



黄河の森

K F G

発行／特定非営利活動法人
黄河の森緑化ネットワーク
常務理事・事務局長／矢野正行
編集責任者／小川良太

〒650-0011
神戸市中央区下山手通り2丁目12-11
神戸華僑会館内
TEL・FAX:078-392-8328
E-mail:kouganomori@s6.dion.ne.jp
URL:http://www.k3.dion.ne.jp/~kougakfg
IP:05031111874



植樹地の測量（オトカ前旗にて）



ああ あの大河 太古より 流れる誇り
ああ その緑 永久に たやさぬ心
燃えたつ生命 ここに ここに

CONTENTS

- P.1 第10回通常総会報告
- P.2 講演「孫文と神戸」
- P.3 黄河の森の今後の課題
- P.4 庭木の健康診断10
- P.4 絵本からのエコ・メッセージ17
- P.5 黄土高原の植物20
- P.6 美しい銀川

市民レベルの交流と支援の着実な継続

第10回 通常総会報告

神戸市中央区において、5月27日(土)「黄河の森緑化ネットワーク」の第10回通常総会が開催されました。最初に石嘉成代表より現在の日中関係を踏まえて「政治・経済において困難な状況にあるが、会としては市民レベルの交流と支援を地道に進めていきたい」との挨拶で始まりました。

会議は2012年度事業報告書及び監査報告書、13年度の事業計画書及び収支予算書を審議の結果、原案通り満場一致で可決されました。主な報告は以下のとおりです。

蘭州市での第Ⅲ期事業は最終年度を終えました。植樹事業は計画

通りに進める事ができましたが、共同植樹10周年の記念事業の「蘭州市シンポジウム」は両国間の紛糾の影響で中止となりました。神戸における記念講演回は予定通り開催しました。

オトカ前旗での植樹は2年目の事業を計画通りに進める事ができました。33,5haの面積に沙柳・楊柴を20万株植えました。この現地の生育・管理状況を確認するために12年3月と9月に、2名の専門家チームを派遣しました。

13年度の蘭州市での植樹は第Ⅳ期事業となります。事業資金は今回も会費からの支出となります。

今後は事業の継続性を図るために資金手当ての確保が課題となります。オトカ前旗の砂漠化土地緑化事業は、第一目標の3年間100haの最終年に当たります。事業はこれまでと同様に「日中緑化交流基金」からの援助を受け、総額500万円です。

最後に今後の大きな課題として、資金と人材確保の問題が出ました。資金の面では植樹種に換金作物一文冠果・菓草などの採用、人材面では若年層への働きかけ策の検討などの意見が出ました。

総会後は孫文記念館長の安井三吉氏による講演が行われました。

孫文と神戸 — 二つの百年目 (1913~2013) 安井三吉 (孫文記念館)

今年は、日中関係という角度から見て、三つの記念すべき年に当たります。第一は、日中平和友好条約が結ばれた1978年から35年、第二は、神戸市が天津市と友好都市提携を結んだ1973年から40年、そして第三は、1913年、孫文が春と夏に日本そして神戸を訪れてから100年目、ということです。

日中関係は、いま「尖閣」の問題により、1972年の国交正常化以来最も緊迫した状態にあります。この41年の歩みを振りかえってみて貿易や人の往来など交流は画期的に拡大と深化を遂げてきたことをまずは確認しておきたいと思えます。また、相互に「嫌日」、「嫌中」の気分が濃厚ですが、一方で相互に相手の存在を重視していることもこのような時期だからこそ再確認しておくべきでしょう。

神戸市では、天津との友好提携40周年ということいろいろと計画をたて、進めていると聞いています。是非、発展させてもらいたいと願っています。

さて、今日のお話は第三の記念のことです。日中関係がかつてなく冷え込んでいる現在、日本でも中国でも、孫文と日本との関係において今年が「二つの100年目」という点で記念すべき年だということにもっと注目してほしい、というのが率直な気持ちです。

1913(大正2)年、辛亥革命の翌年、孫文は春には「準国賓」として、夏には「亡命者」として来日(來神)しています。春は、日本政府から府県・市までそれこそ「朝野をあげて」大歓迎しました。革命の元勳ということでもありましたが、袁世凱臨時大總統と孫文の関係が良好だったことが日本政府(山本権兵衛首相)が安心して孫文を歓迎した理由です。日本政府が孫文をこれほど歓迎したのは後に先にもこの時だけです。それだけに、その気になりさえすれば日中両国政府が一緒になってこの100年を祝賀できたのに、と残念でなりません。神戸には、長崎から東京に行く途中と帰国の途中と2回寄つ

ています。帰路の3月13日、14日、孫文は神戸で兵庫県と神戸市、神戸の実業家たち、そして神戸華僑の大歓迎を受けました。

ところが夏、袁世凱に対する第二革命で敗北した孫文は、今度は「亡命者」として日本にやってきました。この時も山本内閣ですが、孫文を歓迎しませんでした。アメリカに行くように説得せよ、というのが基本方針でした。日本亡命を希望する孫文は、頭山満、犬養毅らに政府説得を要請しました。その結果、日本政府も上陸を許可し、8月9日、神戸では、松方幸次郎や三上豊夷らの手引きで、孫文は川崎造船所構内から上陸して諏訪山の常盤花壇別荘に暫く身を隠すことになりました。16日、政府の許可が下りて、ようやく孫文は船で横浜に向かいました。1週間「潜居」していたわけです。このこと記念して、今、諏訪山公園に記念の銘板を設置するよう準備しているところです。

11目を迎えたNPO法人 『黄河の森緑化ネットワーク』の今後の課題

事務局長
矢野正行

お陰様を持ちまして『黄河の森緑化ネットワーク』の緑化活動は11年の長きに亘り継続する事が出来ました。これも皆様のご協力の賜物と大変感謝致しております。今後も力強く継続して行く所存です。さらさら一層のご支援をよろしくお願い致します。

さて我々は主な活動として、中国甘肅省蘭州市における黄土高原の緑化植樹ならびに内モンゴル自治区オルドス市オトカ前旗での砂漠地の緑化、さらに国内の緑化活動として六甲山住吉山手での里山創りを推進しております。この先10年、20年と活動を継続して行くための課題を次の3点から考えてみたいと思います。

- (1) 世界第2位となった経済大国に支援は必要か
- (2) 活動資金の獲得
- (3) 次世代への引き継ぎ

(1) 世界第2位となった経済大国に支援は必要か

この問題は『黄河の森緑化ネットワーク』の会員からも良く云われる事で、特に最近の日中関係悪化と共にこのような指摘が多くなっています。

古来中国大陸からは先進文化が伝来し、日本の発展を大いに助けました。ただ地理的環境及び自然環境の結果、古くからの黄砂飛来や最近でのpm2.5など有害な超微粒子の飛来等、偏西風に乗って有り難くない物質もやって来ています。我々はこのような有り難くない飛来物を少しでも少なくするた

め黄土高原やオルドス砂地で植樹をしています。しかし我々が行う植樹は多寡が知れています。本当の目的は中国の地元住民の方々に緑化の重要性和楽しさを認識して貰い、自然環境の改善を地元から推進して貰うことにあります。地元住民に緑化に興味をも持って貰えれば環境意識の向上につながると考えています。このような市民レベルの「草の根交流」こそが大変重要であり、現在のあまり良くない日中関係の改善にも必ず役立つと確信しています。この観点からも『黄河の森緑化ネットワーク』の日中友好緑化事業は今後も「草の根交流運動」として継続して行かなければならないと考えています。

(2) 活動資金の獲得

現在会員は約350名いますが、この中で3年以上会費納入が滞っていない正式に会員資格を有している方は約170名となっています。また寄付金は約100万円あり年間総収入は約150万円となっています。このほか日中緑化交流基金からの助成金が500万円ありますがこれは全額オトカ前旗での砂漠地緑化事業用です。この150万円の中から蘭州市での緑化事業を展開しているのですが、ここ数年は資金が不足し事業縮小を余儀なくされています。

これを打開する方法として寄付金を多く集められるよう、当法人は2010年に認定法人資格を取りました。認定NPO法人は全国で265団体（全国NPO法人の約0.5%）

であり、この資格を取得したNPO法人に寄付をすると出資者は種々の税制面での特典が得られます。たとえば個人が認定NPO法人に寄付をした場合、所得税額の25%を上限に寄付金の40%が返還されます。企業においても法人税の掛からない経費枠が大幅に拡大します。このように認定NPO法人は信用力もあり寄付者へ還元されるメリットも多くあります。そして事業を継続して行くためにも多くの皆様に協力をお願いする次第です。

(3) 次世代への引き継ぎ

『黄河の森緑化ネットワーク』では二か月に一回程度、理事・監事会を開催していますが、理事・監事の平均年齢は多分70歳を超えています。このため若い人が中心になって活動している他団体との交流やインターネットなどでの新情報の収集が上手く出来ないきらいがあります。これを改善するのは「若い方にスタッフとして入会して貰えば良い」と簡単に考えるのですが、若い方にも生活があるだろうし、また魅力のない組織には入ってくれないだろうと考えますと大変難しい問題になって来ます。

どのように『黄河の森緑化ネットワーク』の魅力を創るか。明快な答えが出せない次世代への引き継ぎも出来ず、事業の継続も出来ないだろうと考えています。男性だけでなく女性の方にもお知恵を借りたいと考えていますのでぜひよろしくお願ひします。

2013年度 植樹ワーキングツアー参加者募集!!

今年は6月に予定していた上半期のツアーが、中国での鳥インフルエンザの発生により中止になりました。このため今回は2年振りの訪問となります。新たな植樹と共に、これまでに植栽した木々の成長振りを確認します。また、蘭州市の植樹地も訪問して植樹作業をする予定です。その後は、13世紀蒙古軍により滅ぼされた西夏王国の都・銀川、殷王朝の故地でも当時の城壁を見ることが出来る鄭州、歴代の王都洛陽を訪れます。

- 日程 10月10日(木) 出発 10月17日(木) 帰国 7泊8日
- 行程 蘭州市—オトカ前旗—銀川市—鄭州市—洛陽市
- 費用 ¥169,000— 別途各地空港税・燃油サーチャージ等
- 申込み期日 9月4日(水)

<申し込み・問い合わせ>

株式会社 神戸華聯旅行社
TEL.078-391-5185 FAX.078-332-4458

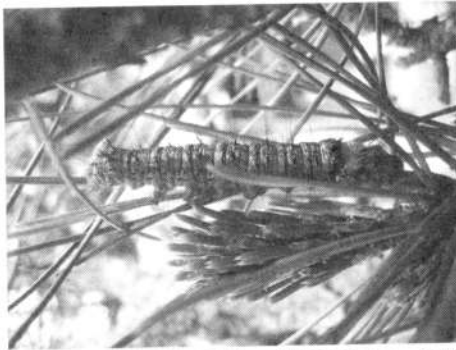
私と環境(18) 庭木の健康診断 ⑩

— 気象害 —

今回から、個々の庭木について、お話します。最初は松から話しましょう。昔から庭には松が良く植えられてきました。しかし最近では松枯れ病（正確には松くい虫によるマツノザイセンチュウ病と言います）による枯れがひどく、個人の庭に限らず神社仏閣の大きな松もどんどん枯れています。庭松は関西ではクロマツ、関東ではアカマツとよく言われますが、関西でもお寺の松はアカマツもよく植えられています。アカマツは樹幹が赤く、葉はクロマツに比べ軟らかく緑色が強く出てきます。このため雌松（メンマツ）ともいい、クロマツの雄松（オンマツ）と区別して呼ぶことがあります。

アカマツ、クロマツともにマツノザイセンチュウ病が良く発生します。一度病気にかかると防除方法がありません。このため予防方法を取る必要があります。病気の原因はマツノザイセンチュウ、漢字で書けば松材線虫ですが、この線虫が松の材内に入り松を枯らしてしまいます。材線虫は自力で松材内には入ることができませんので、マツノマダラカミキリというカミキリムシによって元気な松の細い枝に運ばれます。細い枝に飛んできたカミキリの成虫はお腹が減るものですから、枝をかじり食べます。この時枝には食べ傷が出来ますが、線虫はこの傷から松材内に侵入してきます。枝に入った線虫は

ネズミ算式に数を増やし、枝から幹へと入っていき、松を枯らしてしまいます。線虫が入った松は、夏ごろから急激に葉の変色が始まり、あれよあれよという間に、松は枯れてしまいます。梅雨前ごろからカミキリ



マツカレハ（松毛虫）の幼虫：多量の葉を食べ、多量の糞を出します。クモの巣に引っ掛かったあるいは地上に落ちた糞で、毛虫がいることが解ります。

は線虫を持って飛びまわりますので、この時期6月初旬から8月下旬過ぎまでカミキリを殺す目的でMEP乳剤、チアクロプリド水和剤、チアメトキサム水和剤、アセタミプリド液剤等を散布します。あるいは材内に入ってきた線虫を殺す目的で、酒石酸モランテル液剤、エマメクチン安息香酸塩液剤、塩酸レバミゾール液剤、メスルフェンホス油剤、メルベメクチン乳剤、ネマデクチン液剤等の農薬を幹に穴をあけ冬の間に注入しておきます。6月カミキリが飛んできて、線虫が枝に入ってきた時には既にこれらの農薬が枝の先まで吸

樹木環境研究会「ミルフィーユの会」
天野孝之

取されているため、線虫は死んでしまいます。幹に穴をあけて注入する代わりに、殺線虫剤を根から吸わずホスチアゼート液剤もあります。このような方法で予防する必要があります。感染した松を治療する方法は現在まだ開発されていません。

次に松の葉を食害する蛾の幼虫松毛虫（マツカレハ）がいます。成長すると葉指ほどの大きさにもなり、多量の葉を食害します。親は蛾ですが、幼虫が地上に降りて落葉等の中で越冬します。この性質を利用して、10月ごろから樹幹に薦（コモ）を巻き、その中に越冬幼虫を集める防除法が古くから行われ、それが風物詩にもなっています。最近は樹上で越冬することも多くなってきました。糞も多量に排泄するため、地上の糞を見つけて、枝に毛虫がいることにも気づきます。終齢幼虫の大きな毛虫を見つけたら、お箸かピンセット等でつまみ地上に落ちて踏み殺す方法があります。蛾は7月から8月に現れ、葉に産卵をします。孵化した幼虫は集団生活をしますが、やがて分散していきます。集団生活している間に、MEP乳剤、アセタミプリド液剤を散布すると効果的な防除法が取れます。またはチアメトキサム液剤を樹幹に注入する防除法や樹幹に打ち込むカプセル剤（アセフェート剤）もあります。

絵本からの エコ・メッセージ 17

「すいかのたね」

KFG会員 畑中弘子
(児童文学者)

「ばばあちゃんのお話」シリーズからの一話。
ばばあちゃんがスイカの種を庭に植えます。それを見ていたこねこが「大事そうに何かをかくした」と思い、掘り起こします。が、「なあんだ、つまらんくろいたねか」と言い、元にもどします。それを見ていたこいぬも同じように掘り、がっかりしてまた埋めます。うさぎもきつねも同じように掘り起こし、「くだらん」「つまらん」と言っ



さく・え：さとう わきこ
福音館書店

て！もうおいら、めをだすのはやめだ、やめだ！」
このあと、どうなったのでしょうか。最後の場面に、種ではなくりっぱに育ったスイカを見て驚くうさぎときつね、おいしそうにはおぼっているばばあちゃんとこねここいぬが描かれています。
スイカの種の気持など考えたこともない読者はその言い分になににたわらってしまいます。自然の恵み、特にスイカの種には敬意をはらい感謝していただきましょう。

黄土高原の植物⑳

ブンカンカは中国名「文冠果」の音読みである。ムクロジ科の1種で中国原産の小高木である。ムクロジも中国名「無患子」の音読みだという。ムカンシとしか読めないのだけれど…。有名なレイシ(荔枝)やリュウガン(竜眼)もムクロジ科の植物である。日本で知られるムクロジ科は中国の匂いのする植物である。



ブンカンカの葉、花、果実、種子
 (「中国主要樹種造林技術」より)

ブンカンカは遼寧、内モンゴル、山西、陝西、甘肅の各省・自治区に分布する。黄土高原やその北のマオウス沙地など、乾燥して瘠せた土地にも強く、早く実がなり、種子から油が取れる。中国北方で育つ唯一の木本油料植物といわれる。

1981年発行の「中国主要樹種造林技術」という本には、ブンカンカの種子から取った油が優れた食用油として、また高血圧症の治療薬として利用できるとある。1984年発行の「治沙造林学」にもブンカンカが取り上げられ、15種の砂地固定用木本植物の1つとして解説されている。その他いろいろな話題を総合すると、ブンカンカは食用、石鹸、医薬に、そして開花期間が長いので造園観賞用や蜜源に、また荒山荒地の緑化樹に、木材は家具などに利用するなど、多くの用途があり、昔から身近な有用樹木だったようだ。

昔からの人気さらにアップ

一車も走らせるかブンカンカー

KFG顧問 徳岡正三(元高知大学農学部教授)

最近の中国林業に関する話題は、1つは国家林業局の半月刊誌(月2回発行)の「中国林業」から得ている。この662号(2008年7月前半刊)にブンカンカの記事があった。私たちが緑化支援をしているオトカ前旗から東北東に1100キロ離れたところに同じく内モンゴルのウエンニュウタ旗がある。記事によると、①ブンカンカは成熟林が全国で3000ヘクタールほどあり、そのうちウエンニュウタ旗が約7割を占める、②1回の植栽で百年利益がある「鉄杆庄稼」(収穫の確実な農作物)である、③ウエンニュウタ旗では、今後2010年までに34000ヘクタール、2015年までに67000ヘクタール造成し、旗の主導産業とする、などである。この旗では半世紀の栽培の歴史があり、優良品種「王秀大粒」を作出しているという。さて、ブンカンカにはいろいろな用途があるとして、ウエンニュウタ旗は特に何をねらっているのだろうか。

ブンカンカの種子油からバイオディーゼル燃料(日本でいうBDF。中国語は生物柴油)が取れるのである。第11期5ヵ年計画(2006

～2010年)でこうした油料植物からの燃料抽出と技術開発が奨励され、ウエンニュウタ旗がバイオディーゼル燃料の原料林モデル基地となったのである。誌面には「林油一体化」や「緑色油田」の文字が躍っている。ウエンニュウタ旗はブンカンカの種子油で新しい産業を興そうとしているのだ。

2011年の秋にオトカ前旗を訪れたときブンカンカの栽培地を見学する機会があった。まだこれからという感じであった。オトカ前旗での緑化支援は2013年度で一応終了する。KFGは今後も1期と同様の支援を継続する方針だが、オトカ前旗からブンカンカの栽培に支援を要請されたとも聞く。中国北方一帯でブンカンカへの期待が高まっているようだ。



内モンゴル・ウエンニュウタ旗でのブンカンカ果実の収穫
 (「中国林業 662号」2008年より)

六甲山クリーン&グリーン活動

六甲山植樹 - 住吉山手9期植樹 -

- 2013年 9月 7日(土)
 下草刈り ※雨天中止
- 集合 JR住吉駅南側広場
 9時
- 服装 長袖、帽子、運動靴
- 持参品 弁当、飲み水、軍手、雨具、タオル

参加できる方は
 事務局までお知らせ下さい



最近参加される方が固定化しています。
 新しい方の参加をお待ちしています。

六甲山クリーンアップ活動

- 身近にできることから始めよう -

- 日時 2013年 9月 21日(土)
- 集合 華僑会館(神戸市中央区)
 午後2時
- 歩行 約3時間 再度山ハイキングコース
- 持参品 水筒、雨具、タオル
 ごみ入れ用ビニール袋、軍手

※両日程とも前号でのお知らせとは変更になっております。

中国 便り

現在植樹活動を行っている地域は「オルドス地方」と呼ばれ、古来中華民族と北方民族による激しい攻防の舞台となった地域です。今も多数の民族が生活しています。今回この地の人・街の様子を紹介していただく機会を得ることにしました。楊玉麗さんはオトカ前旗の隣の銀川市の出身で、今年4月に家族を中国に残して来日され兵庫県で研究生生活を始められました。今後も機会を見て紹介をしていただく予定です。

美しい銀川

兵庫県立大学大学院生
楊玉麗

私の出身地は、中国寧夏回族自治区の首府銀川市です。銀川市は黄河の上流の寧夏平原の中部に位置し、2037年の長い歴史を持つ古い街です。古くは「川の南の砦」と称され、町には鳳凰が棲んでいるとの伝説があり「鳳凰城」とも呼ばれていました。銀川は中国の中原文化、西夏文化、自治区政府が発展に特に力を入れている回族のイスラム文化などが融合した都市です。今では銀川はもっともイスラムの風情のある現代都市の一つです。

銀川市の総人口は145万人、回族の人口は約3分の1です。面積は9600平方キロメートル・海拔は1100m・中温帯の大陸性気候で、稲・麦・豆類・トウモロコシ・各種野菜・瓜類の栽培に適しています。「寧夏貢米」はもっとも有名なブドウです。寧夏はフランスのボルドー地方と緯度がほぼ同じです、そのためブドウ生産としての環境が良く似ています。近年銀川市ではブドウ酒製造が急速に発展しています。さらに寧夏には「五宝」と呼ばれる有名なものが有ります。それは、赤色—枸杞の実・白色—羊皮・黒色—髮菜・青色—賀蘭石・黄色—甘草です。これらの産物は内外の観光客から好評を得ています。



賀蘭石

銀川には回族特有の建築物が多くあります。清真寺の外観は、塔屋は火炎形をして三日月形の飾りの尖塔があり、外壁は緑色で装飾され、回族の風情を濃く表しています。「納家戸回郷文化園」はイスラム文化と漢族文化の結合したもので、大礼拜堂（モスク）は金色に輝く大規模なもので多くの観光客を引きつけて

います。

銀川の回族は早婚の習俗があり、一般に女性は16歳前後で嫁入りします。結婚の手順は媒酌人・仲人・結納・式日選ぴと基本的には漢族と同様です。結婚式の当日は二人に祝福の言葉を大声で掛けます。子供が生まれると二つの名前を付けます。一つはイスラム名でこれは必ず付けます、もう一つは通名です。通名は同じ名が多くなります。

銀川における回・漢族間の結婚は普通にあります。その多くは漢族の女性が、回族の家庭に嫁入りします。その際には、女性はイスラム教に改宗することにより結婚ができます。回族の女性が漢族の家庭に嫁入りするのは比較的少数です。それは日常生活においても、男性の漢族の家庭では回族の生活習慣を守らなければならないからです。このため回族の女性を妻にすることは、人々から羨ましがられることとなります。

回族の生活や習俗、人々を尊重することは、銀川ではごく自然のことです。客を招いて食事をする場合、中に一人の回族がいれば「清真食堂」でするようにします。一般に、回族の禁忌である「豚」あるいは豚という語を面前で口にすることは有りません。故意にこのようなことをすることは、回族の友人としては有り得ないことです。

私は漢族の人間として思いもかけず回民の街、銀川にきてここでの生活が長くなりました。そして、回族の多くの友人ができました。彼らとは家族のように親しくしています。



清真寺

銀川の人々は客をもてなすのが大好きです。美しい銀川にお越しく下さい歓迎します。

我が家は「小天安門」と呼ばれる南門広場の近くに有ります。

親睦会のお知らせ

<KFG歴史散歩>

- 日時 平成25年11月2日(土)
 - 集合 JR灘駅 改札口 午前10時
 - コース 灘区 敏馬神社、西求女塚古墳
東灘区 処女塚古墳、東求女塚古墳、灘の酒蔵 他(約3時間)
- ※参加ご希望の方は当日集合地にお越しください。

<松茸狩>

10月下旬ごろを予定しておりますが、山の状況は今後の天候にも左右されますので、参加ご希望の方は10月に入ってから事務局にお問い合わせください。